

＜放送を巡る諸課題に関する検討会＞
「放送サービスの未来像を見据えた周波数有効活用に関する検討分科会」
ご説明資料

公共放送NHKのめざす社会的役割

平成30年2月28日

日本放送協会

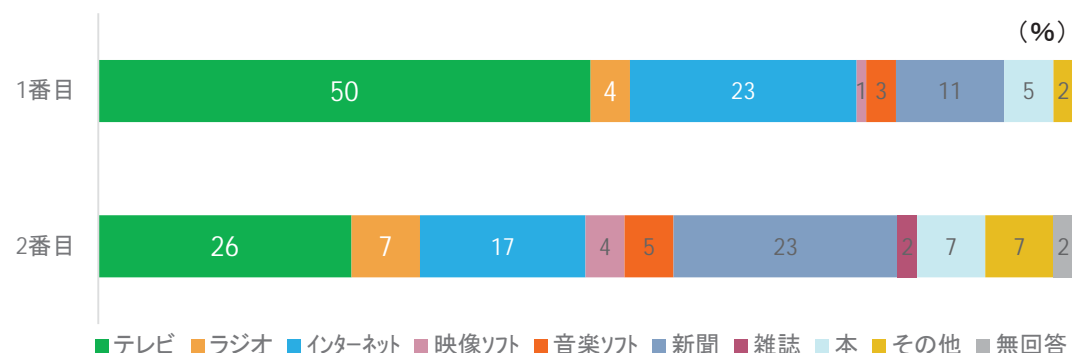
NHKに寄せられる期待と「公共的価値」

テレビ・ラジオに寄せられる期待

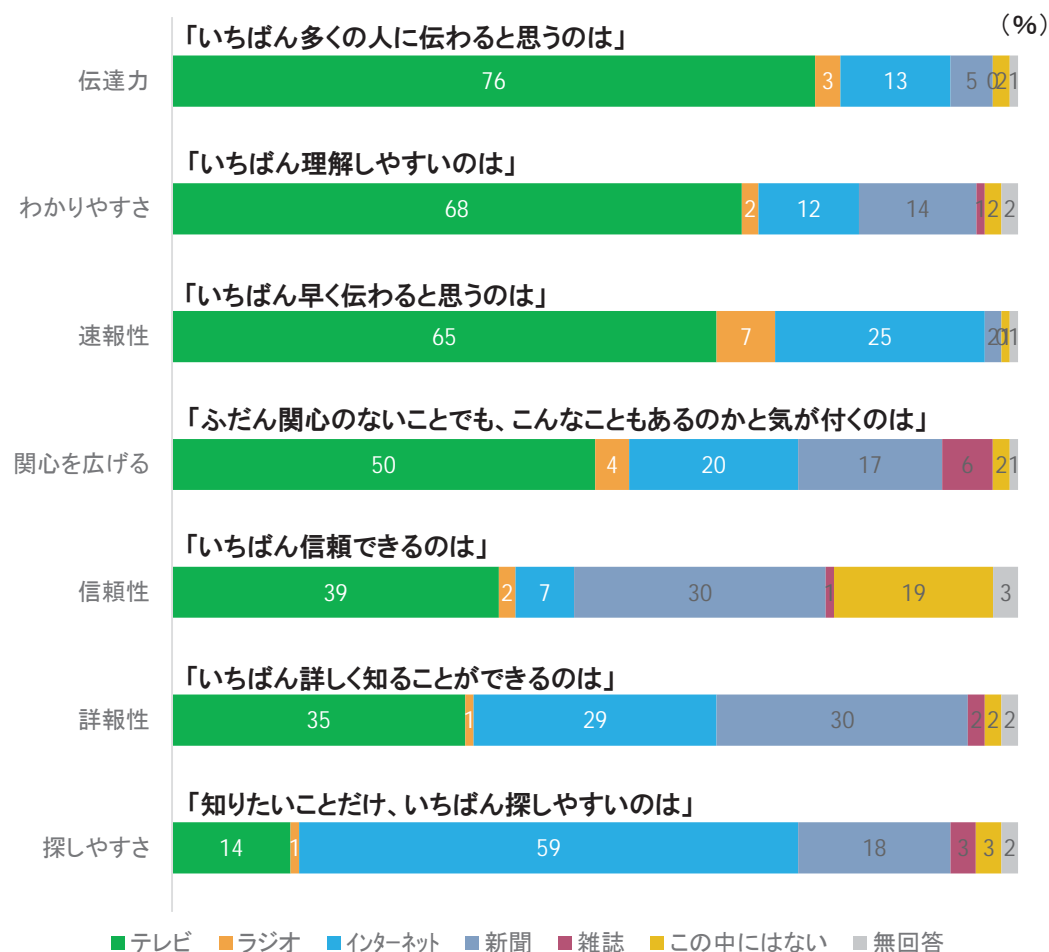
(NHK「日本人とテレビ・2015」^(*)調査より)

- ◆ NHKが5年ごとに行っている世論調査「日本人とテレビ・2015」によると、「一番欠かせない」、「二番目に欠かせない」メディアともにテレビを挙げる人が最も多かった。
- ◆ メディアから“ニュースや情報を知る”場合、「伝達力」「わかりやすさ」「速報性」でテレビの評価が高い。

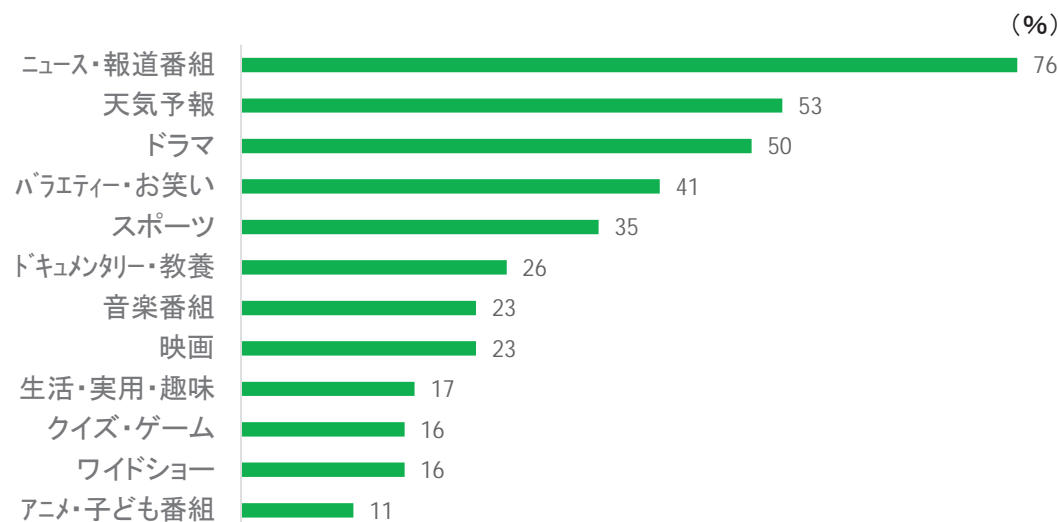
<欠かせないメディア>



<メディアの特性比較>



<よく見るテレビ番組のジャンル> (複数回答)

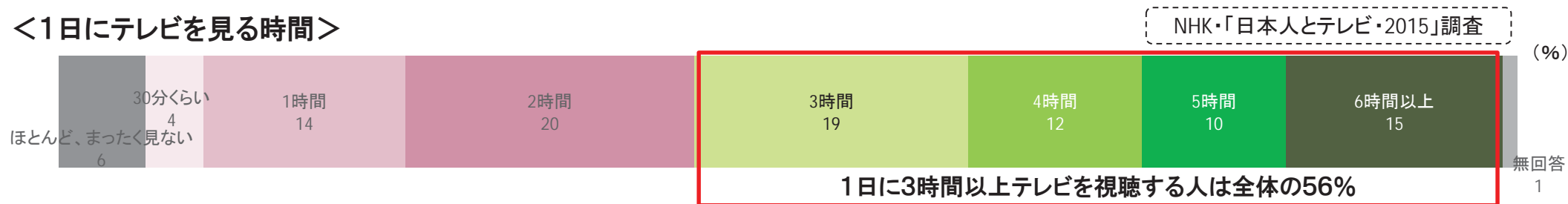


(*)調査概要:2015年2月27日～3月8日・16歳以上の全国の男女3600人を対象に配付回収方式で実施

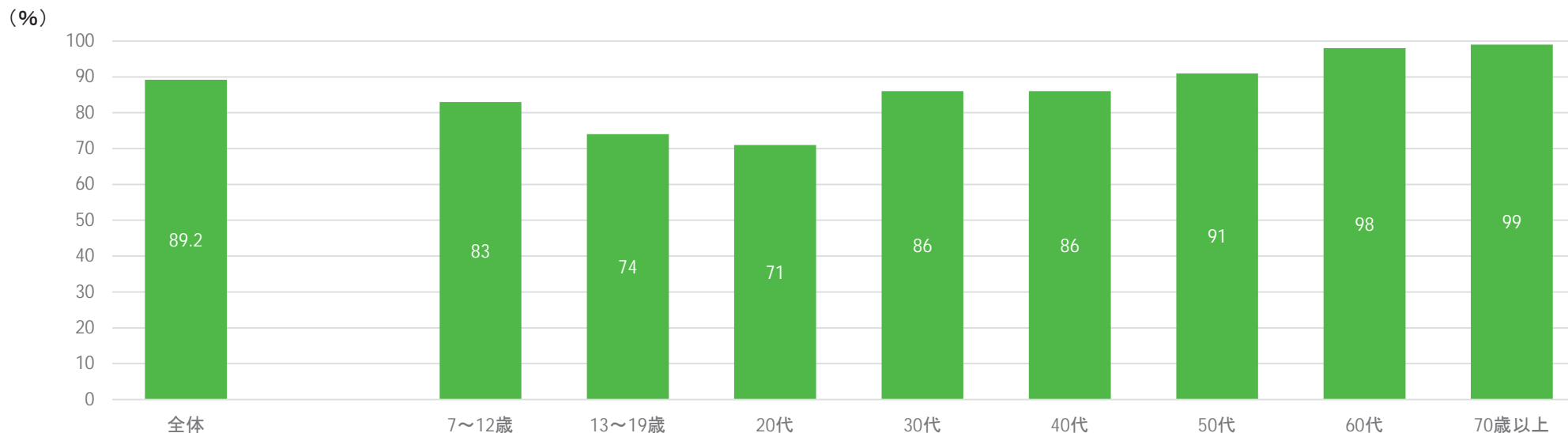
テレビ・ラジオの見られ方・聴かれ方

- ◆ 1日にテレビを見る時間は3時間以上という人は全体の半数以上。
- ◆ NHK・民放を含めた放送のリアルタイムリーチは世代によって違うが、依然として高い。

<1日にテレビを見る時間>



<リアルタイムリーチ(テレビ・ラジオ計)>

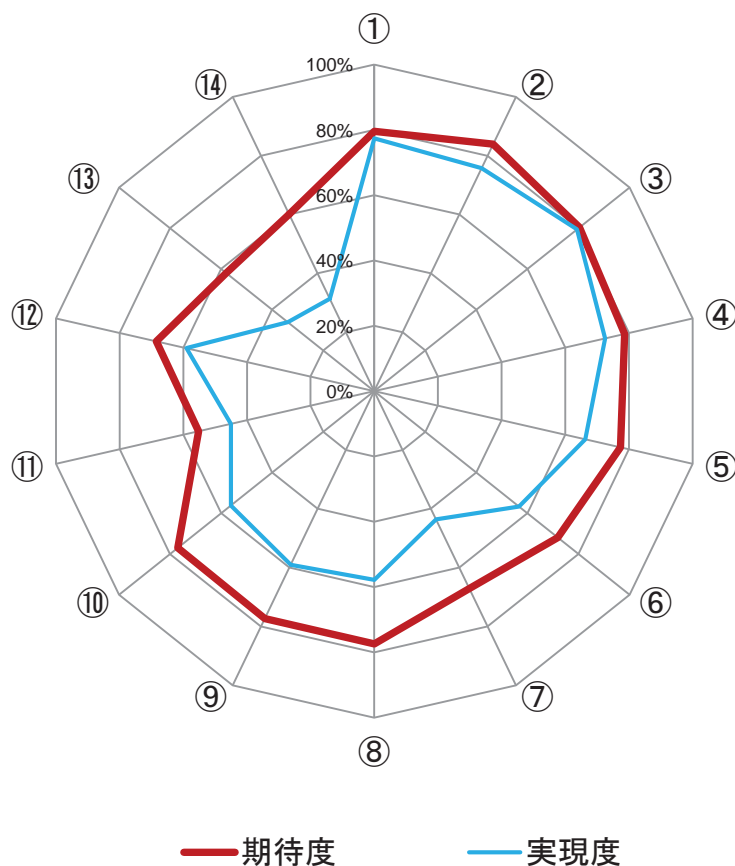


NHK・「2017年6月全国放送サービス接触動向調査」:2017年6月5日~11日・7歳以上の男女3600人を対象に配付回収方式で実施

NHKは“14の経営指標”で信頼の確立をめざす

- ◆ NHKでは、「公平・公正」など、14の経営指標を設け、それぞれの指標に対する視聴者のみなさまの「NHKへの期待度」と「実現度」を把握・分析し、その差を縮めることを目標に、事業運営を進めている。
- ◆ そのために年2回世論調査を実施。29年7月に実施した調査では、①「公平・公正」、②「正確・迅速な情報提供」、③「多角的論点の提示」などの項目において、NHKに期待している人の割合は約8割となっている。

<14の経営指標における期待度・実現度>



- | |
|--------------|
| ① 公平・公正 |
| ② 正確・迅速な情報提供 |
| ③ 多角的論点の提示 |
| ④ 記録・伝承 |
| ⑤ 文化の創造・発展 |
| ⑥ 多様性をふまえた編成 |
| ⑦ 新規性・創造性 |
| ⑧ 世界への情報発信 |
| ⑨ 地域社会への貢献 |
| ⑩ 人にやさしい放送 |
| ⑪ インターネットの活用 |
| ⑫ 放送技術の発展 |
| ⑬ 受信料制度の理解促進 |
| ⑭ 受信料の公平負担 |

NHKに対する
期待が高い項目

NHKの各チャンネルの役割

- ◆ NHKには現在、地上放送のテレビ2波、ラジオ3波、衛星放送2波があり、それらに加えて今年の12月1日から衛星放送で4K8Kの本放送がスタートする。
- ◆ 視聴者のみなさまからの幅広い期待に応えるため、それぞれのチャンネルの役割を以下のように位置づけている。

地上放送

総合テレビジョン

基幹波として防災・減災報道、公平・公正なニュースや番組、多彩な分野の番組を編成

教育テレビジョン(Eテレ)

教育、福祉などの重要課題に加え、語学・教養・趣味実用など多彩な番組を編成

ラジオ第1放送

いざという時の安全・安心を担う音声基幹波として命を守り暮らしに役立つ情報を提供

ラジオ第2放送

生涯学習波として、多様な知的欲求に応える番組や語学番組を編成

FM放送

総合音楽波として、さまざまな音楽・芸能ジャンルのコンテンツをバランス良く編成

衛星放送

BS1

“ライブ感あふれる情報チャンネル”としてスポーツ、国際・経済などの各分野の番組を編成

BSプレミアム

“本物志向の爽快エンターテインメントチャンネル”をめざし、ゴージャスで多彩な番組を編成

NHK BS4K

“スーパーハイビジョンの入り口”と位置づけ、幅広いジャンルの番組を編成

NHK BS8K

8Kならではの圧倒的な映像・音響による“未知の映像体験”を提供

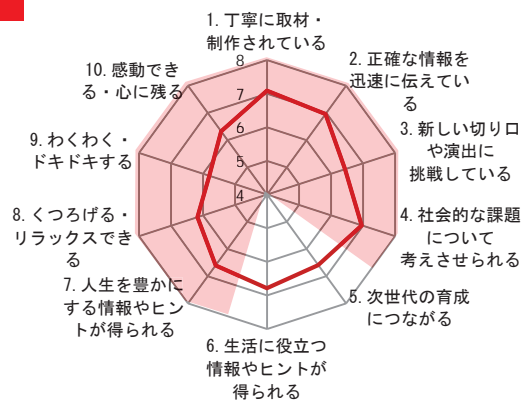
(2018年12月1日放送開始予定)

“10の評価指標”で放送の質的向上をめざす

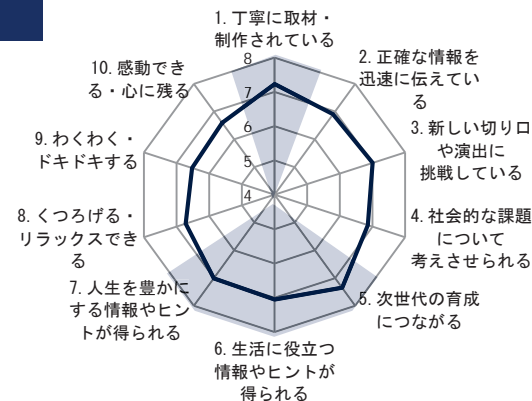
- ◆ NHKの放送およびインターネットサービスについては、10項目の質的な評価指標を設定し、質の改善を通じた経営指標の向上を目指している。
- ◆ 四半期ごとに年4回、インターネット調査で、視聴者の評価状況を把握しており、平成29年12月実施分では、「丁寧に取材・制作されている」「正確な情報を迅速に伝えている」などで高位の評価を確保している。

＜各チャンネルの調査結果＞（グラフの色付き部分は各チャンネルで特に意識する領域）

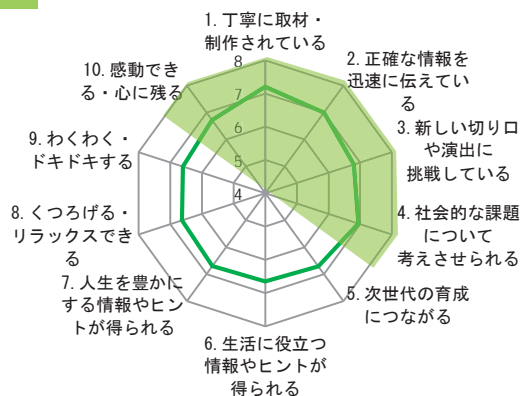
総合テレビ



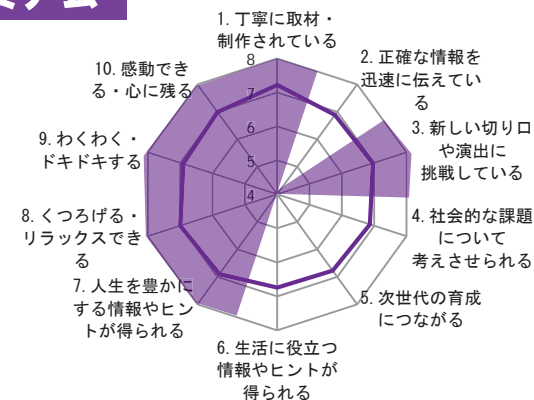
Eテレ



BS1



BSプレミアム



- 母数は各チャンネル等に月に1回でもリアルタイムか、録画再生で接触した人
- 出所)10指標評価:平成29年12月トータルリーチ調査(web調査 関東20-60代)

新経営計画で示したNHKの「6つの公共的価値」

- ◆ NHKは、これまでも放送を通じて「公共的価値」の実現を追求してきたが、新経営計画の策定において、改めて以下の6つに整理し直し、実現度の向上を図ることとした。

1 正確、公平・公正な情報で貢献

蓄積してきた取材力・制作力を生かし、インターネットも活用して、正確な情報を公平・公正に伝え、人々の判断のよりどころとなり、健全な民主主義の発達に寄与する

2 安全で安心な暮らしに貢献

「命と暮らしを守る報道」に全力を挙げ、テレビ・ラジオ・インターネットで必要な情報を届けることで、より多くの人の「安全・安心」に貢献する

3 質の高い文化の創造

「第一級のコンテンツ」制作や最先端技術を駆使した放送・サービスを通じ、文化の向上に寄与し、技術の進歩発達の先導的役割を果たす

4 地域社会への貢献

さまざまな文化や暮らしが息づく地域の豊かさ、固有の課題などを広く共有し、放送・サービスを通じて、多様な地域社会に貢献する

5 日本と国際社会への理解促進

国際社会との相互理解を進めるため、日本についての正確で多様な情報を世界各国に向けて積極的に発信する

6 教育と福祉への貢献

幅広い年齢層の教育・学習・福祉に関するコンテンツや、高齢者・障害者なども利用しやすい放送・サービスの充実を通して、暮らしやすい社会の実現に貢献する

NHKの災害報道の取り組み

安全で安心な暮らしに貢献

- ◆ 「命と暮らしを守る報道」に全力を挙げ、テレビ・ラジオ・インターネットで必要な情報を届けることで、より多くの人々の「安全・安心」に貢献する

1 最初動段階	2 初動段階	3 初期段階
減災報道に全力 ●発災から災害等の全体像が把握できるまで	災害報道を展開 ●全体像の把握後、全国放送のライフライン放送開始まで	災害報道＋ライフライン放送 ●ローカルライフライン放送開始まで
国民の生命財産が最も危険にさらされている時期	国民の生命財産が危険にさらされる時期 ●大都市圏では、帰宅困難者等に向けた情報提供が必要に	国民の生命財産への危機が続く一方、被災者・帰宅困難者等の地域密着情報へのニーズが高まる時期

- ◆ 災害対策基本法による指定公共機関として、放送が持つ同報性・即時性を生かし、各放送波を最大限に活用して必要な情報をより多くの視聴者に届ける

総合テレビ	教育テレビ	BS1	BSプレミアム
災害報道・減災報道の基幹波	被災者・災害弱者支援波	※総合との同時放送を基本	※教育との同時放送を基本
ラジオ第1	ラジオ第2	FM	国際放送
音声波の災害報道の基幹波	在日・訪日外国人向けの外国語放送	災害報道ときめ細かい情報（帰宅困難者向け情報） （ライフライン放送）	NHKワールドTV、プレミアム、ラジオ日本、インターネットで、全世界に日本の状況を発信

※インターネットはNHKオンラインでのニュース、災害・防災情報、ライフライン情報、J-anpi検索 等

命と暮らしを守る報道

熊本地震への対応

- ◆ 一昨年4月14日の発生直後から、テレビ・ラジオ全7波で緊急報道を実施
(本部および全国各放送局から、ピーク時約550人の応援者を派遣)
 - ◆ 発生から1週間で、総合テレビ 約90時間、ラジオ第1 約85時間

- ◆ 全国放送と地域向け放送、インターネット等を使い、必要な情報を提供
 - ◆ 生活に関する情報をきめ細かく伝える「ライフライン放送」(熊本県域放送)を4/15未明から開始。(NHKオンラインでも情報提供)
 - ◆ 関連番組(全国放送)例
 - NHKスペシャル:「緊急報告 熊本地震 活断層の脅威」(4/16)
「最新報告 “連鎖”大地震 終わらない危機」(5/14)他
 - クローズアップ現代+:「孤立した村で～“連鎖”大地震・最新報告」(4/21)
「連続震度7 地域と家族を守れ～地元消防団1か月の格闘～」(5/12)他
 - 「あさイチ」特集 いま避難生活に必要なもの(4/20)
 - 「ハートネットTV」緊急報告・熊本地震(3) どう支える被災した障害者(4/27) など
 - ◆ インターネット同時配信
 - テレビ:4/14夜～4/18朝にかけて、総合テレビの地震関連ニュースを断続的にインターネットで同時配信。
5日間で500万を超える訪問者。
 - ラジオ:熊本県域 ラジオ第1、FMをネット同時配信。
 - ◆ 国際放送でも、発生直後から特設ニュース



命と暮らしを守る報道 放送継続の取り組み（熊本地震）

被災した送信所の迅速なバックアップ

被災した南阿蘇テレビ送信所



送信所のバックアップ設備



非常用送信車両



仮設送信所

災害情報を途切れさせないよう
地域の民間放送事業者と連携して、
被災地域の電波確保・放送継続に万全を期す

命と暮らしを守る報道 **現場からの映像伝送(東日本大震災)**

被災地の状況を映像・音声としてリアルタイム伝送

ロボットカメラ



海岸やビルの屋上などに設置し、周辺の映像を伝送

取材用ヘリコプター



防振カメラ・伝送設備を搭載し、上空からの映像を伝送

中継車



どこからでも迅速な伝送を可能とする

現場から放送局まで伝送



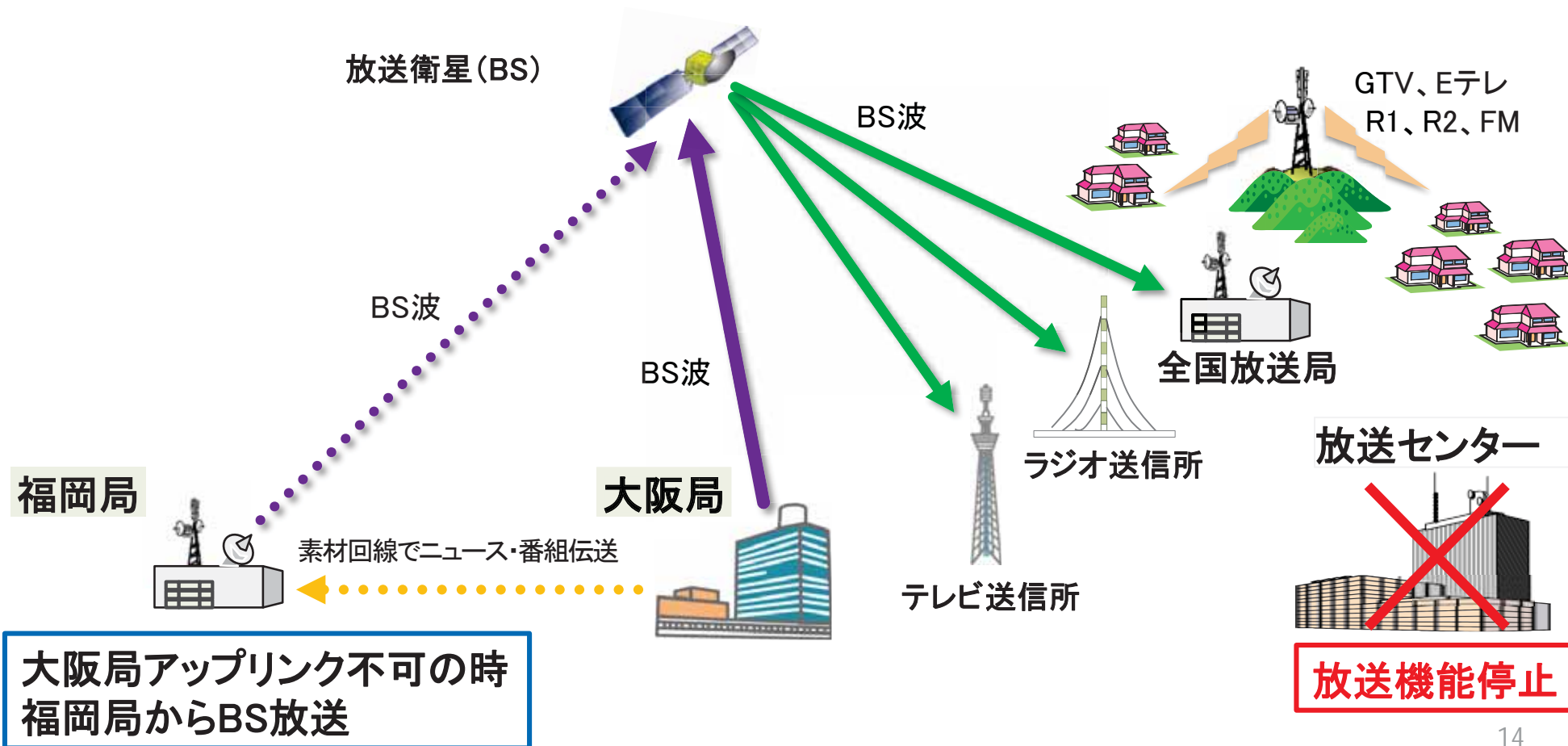
東日本大震災での災害報道の映像

命と暮らしを守る報道

放送センター機能停止時のバックアップ

首都直下地震・大停電等による放送センター(東京・渋谷)機能停止に備えた設備強化

- 大阪局からBS波をアップリンクし、ニュースなど全国放送を継続
- 各放送局はこれを受信し、地上(GTV、Eテレ)、ラジオ(R1、R2、FM)で放送
- 大阪局が豪雨等によりアップリンク不可の時は、福岡局がバックアップ



NHKによる「公共的価値」の追求

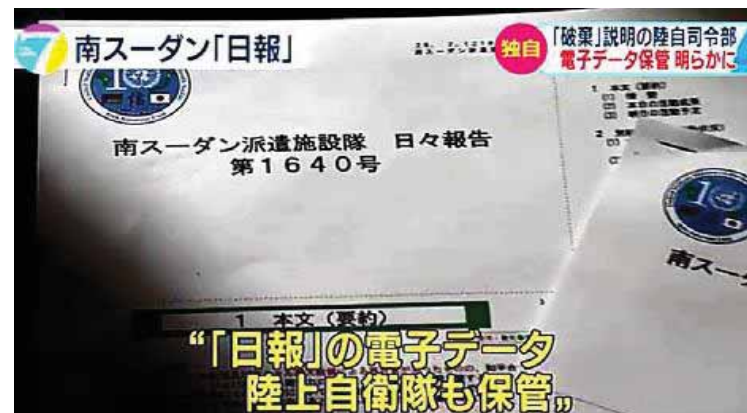
正確、公平・公正な情報で貢献

- ◆ 蓄積してきた取材力・制作力を生かし、インターネットも活用して、正確な情報を公平・公正に伝え、人々の判断のよりどころとなり、健全な民主主義の発達に寄与する



正確・迅速な選挙の開票速報
(世帯視聴率17.1% 関東20時台)

※昨年10月衆院選 ビデオリサーチ調べ



調査報道への取り組み
防衛省日報問題(新聞協会賞)



インターネットの取材活用

SNS上での情報をキャッチし、NHKで確認後に報じるなど、速報取材の手がかりの一つとして活用。

(SoLT……Social Listening Team)

質の高い文化の創造

- ◆「第一級のコンテンツ」制作や最先端技術を駆使した放送・サービスを通じ、文化の向上に寄与し、技術の進歩発達の先導的役割を果たす



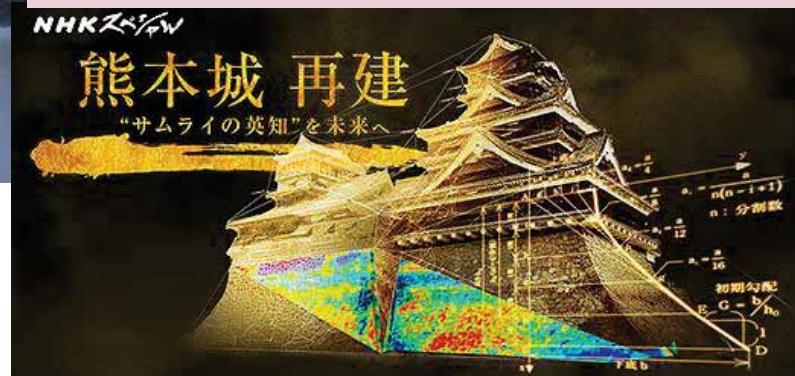
NHKスペシャル



シリーズ
巨大遺跡透視



列島誕生
ジオ・ジャパン



社会や地域の課題を伝える

◆日本や地域が抱える課題や背景を伝え、よりよい社会の実現に貢献する

◆日本の課題を考える



NHKスペシャル 「私たちのこれから」

日本が直面する大きな課題について、レポートVTRを交えながらスタジオで専門家や視聴者が討論する番組。ツイッターなどによる視聴者からの声も交えて放送。

※29年度途中からAIを活用して解決策のヒントを探る番組「AIに聞いてみた どうすんのよ!?ニッポン」に展開。

◆地域の課題を考える



札幌放送局では、JR北海道の路線存続問題について、ニュースや特集番組で継続的に取材・放送。



新潟放送局では、地域の住民自身がテレビを使って地域を元気にする取り組みに挑む番組を放送。

◆ネットとも連動し考える



神奈川県相模原市にある知的障害者施設で起きた殺傷事件。失われた命の重さを伝え、その痛みを少しでも想像し、みんなで受け止めていくことで、再び悲劇を生まない社会を作っていこうと、WEBとも連動しニュース・番組で関連企画を放送。

日本と国際社会の理解促進

◆国際社会との相互理解を進めるため、日本についての正確で多様な情報を世界各国に向けて積極的に発信する



●インターネットでのストリーミング



●日本発の情報を世界に向けて発信



●ラジオ国際放送



●夜の大型ニュース番組



●海外特派員による取材

教育と福祉への貢献

- ◆ 学びの場をあまねく提供する教育番組 ◆ 「共生社会」の実現に貢献する福祉番組
 ◆ 見過ごされがちな社会の動きに人々の目を向け、社会が動くきっかけとなるキャンペーン

◆ 「教育への貢献」

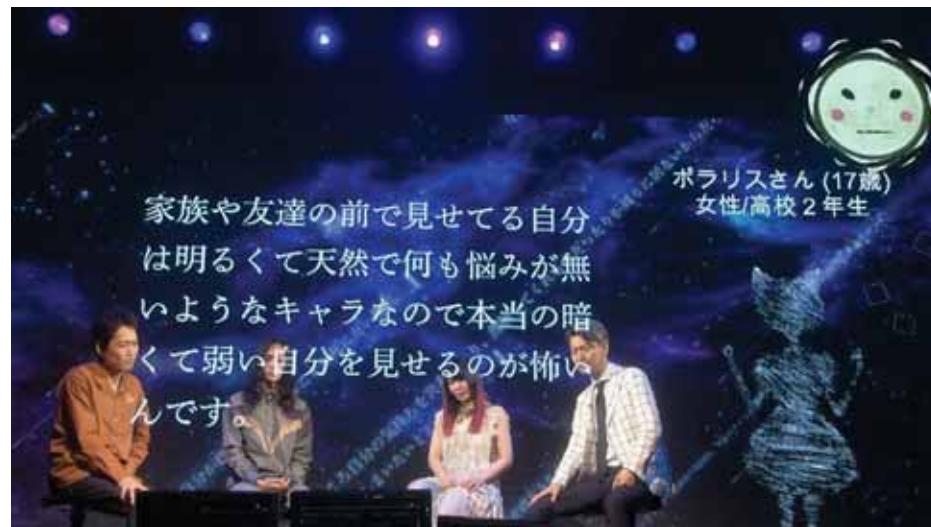


テレビの表現力を生かしたさまざまな番組で、学びをサポート



◆ 「福祉への貢献」

平成29年5月に開始した「発達障害プロジェクト」は、「あさイチ」「ハートネットTV」「ETV特集」など、総合テレビやEテレの番組が連携し、“見えない障害”について、世間の理解を広めた。



「キャンペーン #8月31日の夜に。」

平成29年8月31日放送

▼9月1日は若者の自殺が1年で最も多い。夏休みの最後、8月31日の夜に、「死にたい」「学校に行きたくない」と悩む十代の声に、4時間近くひたすら耳を傾けた。

▼「ハートネットTV 生きるためのテレビ」などの生放送と同時に、テレビを見るのがつらい人に向けライブストリーミングを実施、SNSの声も受け止めた。放送とネットの、それぞれの特性を生かした連携により、ありのままの思いを安心して発信し、それに共感が集まる「場」を生み出すことができた。「毎日叫んで死にたかった中学生の私が、少し救われた日。これから少し、生きていける気がする。」

放送の品質を確保する主な仕組み

番組基準の制定(法定)

- 「NHK国内番組基準」
- 「NHK国際番組基準」

○放送事業者は「番組基準」に従って放送番組の編集を行う義務。

取材、制作業務における取り組みなど

- ニュース、番組制作の現場における“品質管理”

■放送ガイドライン

○職員をはじめ、NHKの放送に携わるすべての者にとって、日々の取材や番組制作を行う上での判断の指針。

■インターネットガイドライン

■放送倫理委員会

○放送担当役員を座長に本部関係部局長で構成
○放送倫理に関する自己検証、方針の決定・周知等

■9条委員会

○放送法第9条第1項の規定による「訂正又は取消し放送」の請求があった場合、それが必要か否かを検討。
○放送総局長又は拠点局長は9条委員会の報告を踏まえて最終判断する。

番組審議機関の設置(法定)

■放送番組審議会

○審議会は、放送番組の適正を図るため、必要な事項を審議するほか、NHKに対して意見を述べる。
○NHKは、番組基準及び編集の基本計画を定め、変更する場合は、審議会に諮問を行う。
○NHKは審議会の答申・意見を尊重した措置をとり、その内容を審議会に報告する。
○議事概要は公表。

内部機関の設置

■考査室

○「番組基準」に従って番組を自主的に規律し、その向上を図ることを目的に番組考査を行う。
○事前考査、放送考査を行う。

放送事業者による第三者機関の設置

◆放送倫理・番組向上機構(BPO)

○放送への苦情や放送倫理上の問題に対して、迅速・的確に対応し、正確な放送と放送倫理の向上に寄与。
○案件を審理の上、放送事業者に対し勧告・見解。
○放送事業者は再発防止計画を提出。

「6つの公共的価値」の実現を追求

